北道研会報

北海道道徳教育研究会

第１５５号

発行所：北海道道徳教育研究会
事務局：〒007-0837
札幌市東区北３７条東２０丁目３－１
札幌市立栄南小学校
TEL 011-781-1257　FAX 011-783-5964
発行人：鹿野内　憲　一
編集人：荒　井　亮　子

記念すべき「道徳科元年」上川・旭川大会の成果

第 53 回北海道道徳教育研究大会上川・旭川大会
大会長　鹿 野 内　憲　一
（札幌市立東栄中学校長）

第 53 回北海道道徳教育研究大会上川・旭川大会が旭川市において、450 名を超える参加者を得て、盛大に開催できましたことを大変うれしく思います。御参加いただいた皆様に心より感謝申し上げます。今研究大会を通じて、本研究会が本道の道徳教育充実のために今まで以上に牽引していく使命と責任の大きさを感じました。

また、今研究大会開催にあたり、御支援・御協力いただきました各教育関係機関及び会場校の旭川市立朝日小学校木下俊吾校長先生、旭川市立中央中学校伊東義晃校長先生をはじめ教職員、関係者の皆様、準備・運営に御尽力いただきました上川管内道徳教育研究会の会員の皆様には、改めて心より御礼申し上げます。

本年度の上川・旭川大会は、５年ぶりの大会でした。上川管内道徳教育研究会の皆様が全道大会開催に向けて、授業研究や各種研修等に精力的に取り組まれてきた成果が随所で見られ、その熱意が大会成功に導きました。その取組に心より敬意を表します。

今研究大会では、小学校で７つ、中学校で６つの授業が公開されました。どの授業も、ねらいとする道徳的価値に迫るための「教材」を吟味した、多面的・多角的に考えるための発問の工夫。そして、児童生徒が話し合い活動を展開する中で「他者」と共感し、対話や議論による授業の展開。さらに、授業で気づいた道徳的価値を振り返りながら「自分」と向き合うこと。このように「教材」「他者」「自分」と向き合うことで、よりよい生き方を広げる道徳教育に迫る授業が行われました。そして何より、教師と生徒が共に考え、共に語り合う場面がそこにはありました。

また、授業分科会や課題別分科会で今までの大会以上に感じたことは、参加された先生方の真摯に学ぼうという姿勢でした。今年度から小学校で道徳科が全面実施され、来年度は中学校での実施というなかで参加された先生方がそれぞれの学校現場で実践研究を積んでこられてきていることをひしひしと感じる、内容の濃い討議となっていました。

また、特別講演をしていただいた京都産業大学教授の柴原弘志先生のお話は、時間がたつのを忘れるほどの道徳教育に対する熱い気持ちのこもった御講演でした。特に、授業評価の観点の中で「児童生徒の発言を傾聴して受け止め、発問に対する児童生徒の発言などの反応を適切に指導し生かすこと」の重要性を示され、評価をするうえでの授業づくりの大切さを改めて教えていただきました。

これらの上川・旭川大会の大きな成果が参加された多くの先生方によって全道各地で広げられ、深められていくことを願っています。そして、この成果を来年度の札幌大会へとつなげ、オール北海道で力を合わせて進んでいきましょう。

「考え、議論する」学びの場を広げ

第 53 回北海道道徳教育研究大会上川・旭川大会

大会運営委員長　林　邦子

（旭川市立緑が丘中学校長）

雄大な大雪山連峰に抱かれた「命あふれる川のまち」、個性豊かな文学や芸術が息づいた「人と文化がふれあうまち」 旭川市において第５３回北海道道徳教育研究大会を開催することが出来、道内各地から４５０名にものぼる皆様の参加をいただきました。昨年の函館大会の成果を受け、盛会のうちに終了出来ましたことに心より感謝申し上げますとともに、全小道、全中道をはじめ北道研や各支部、関係機関の皆様のご支援をいただきましたことにあらためて御礼申し上げます。

本年度から小学校において「特別の教科　道徳」が全面実施され、来年度には中学校が続くというこの時期の開催となることを踏まえ、本大会に寄せられる期待、注目がどれほどのものであるかを自覚しながら準備を進めてまいりました。授業においては、「教材」、「他者」、「自己」に向き合う視点と手立てを明確にすることで、子どもたち一人一人が心をひらき、道徳的価値への理解を深め、よりよい生き方へと向かう意欲や態度を高めていくことをめざしました。小学校７本、中学校６本の授業を受けての授業分科会、課題別分科会での熱気あふれる研究協議、そして、柴原先生の熱いご講演から、参会された皆様が明日の実践への力を得られたものと考えます。この成果が豊かな実りとなって全道に広がっていくことを確信しております。

結びになりますが、本研究大会に集い、学びを深め広げていただきましたすべての皆様に心より厚く御礼申し上げ、大会終了のご挨拶といたします。来年、札幌での再会を楽しみにしております。

第53回上川・旭川大会～授業者から

小学校１年授業者　伊　藤　陽　子

（旭川市立近文第二小学校）

入学当初は、全く知らない者同士だった 6 人の子どもたち。あの子もこの子も一斉に、教師に向けてのみ話す、春の道徳でした。

それから半年。本時では、「ぼく・わたしのよいところ」を主題とする中で、友達のよいところを「知っているよ！」「それ見たよ。」と語り、うなずき、言葉をつなぐ姿がありました。自分のよいところを仲間に気付かせてもらって、ほほを緩めてはにかむ姿もありました。子どもがつながり合う様子は嬉しい成長であり、自分一人ではたどり着けなかった授業だったと思います。支えて下さった皆様への感謝を胸に、今後も努力を重ねます。

第53回上川・旭川大会～授業者から

小学校３年授業者　　鏡　雄介
（東神楽町立東聖小学校）

私は今回の大会で、非常に多くの学びと経験を得ることができました。当日に至るまで、目の前の子どもたちと道徳の時間を通してやりとりした過程。これは、この機会を与えていただかなければ経験できなかったことだと今は感じています。

道徳の授業構築や日常の実践についても、同様です。「発問の精査」「ねらいとの整合」「具体的な子どもたちの反応とその切り返し」こういった１つ１つの積み重ねが、私自身の日々の実践力を向上させてくれました。

道徳の時間が私はとても好きです。子どもたちが本音で語り合う、そんな授業を今後も目指していきたいと思います。

中学校２年授業者　　角　明 樹
（旭川市立永山南中学校）

授業構築にあたり、多くの先生方からアドバイスをいただきました。授業では、「価値をゆさぶること」。そのための「切り返し」に重点を置いて授業を行ったつもりです。

当日は、生徒が自発的に発言してくれ、和やかな雰囲気の中、私自身も楽しく授業をすることができました。

「学級経営」「教科指導」「校務分掌」「部活動」など、普段はなかなか道徳科の授業作りに多くの時間を割けない現状の中、このような貴重な場をいただいたことに感謝いたします。これからも、楽しい道徳科の授業を実践していきたいと思います。

第53回上川・旭川大会～課題別分科会提案者から

第１分科会提案者　尾 崎　真 紀
（北竜町立真竜小学校）

本校では今年度から道徳教育を研修の中心として進めています。恥ずかしながら１単位時間の授業をどうするか、ということに目を向けていましたが、今回の提言発表を通じて、全体計画の重要性を改めて感じることができました。今後、日常の道徳教育の推進を図るためにもカリキュラムマネジメントの３つの視点から全体計画・年間指導計画の改善をし職員の共通理解を図らなければならないと思いました。

このような機会をいただいたこと、たくさんの方からお力添えをいただいたことに心より感謝申し上げます。

第４分科会提案者　佐 藤　未 菜
（根室市立北斗小学校）

地域の実態から、”北方領土問題“ではなく、”身近な国“として、ロシアの別の面を見るきっかけとなる国際親善の授業実践について発表させていただきました。地域に住むロシア人の方から、ロシアについての話を聞いたこと、自分達がしている国際親善についての話を児童が交流したことが、この授業で身近な国ロシアを多面的に見る大きなきっかけとなったと思います。分科会でいただいたご助言を生かし、他教科との関連も考えながら、今回の授業を今後につなげていきたいと思います。

このような貴重な機会をいただいたこと、心より感謝申し上げます。

第５分科会提案者　中 川　朋 樹
（伊達市立光陵中学校）

本校で実践している地域性を生かした道徳教育について、提言させて頂きました。これまで，学校体制として取り組んできた道徳教育でしたが、今回の発表のために、資料を整理する中で、学年の系統性を再確認することや、教科横断的な教育活動についても改めて考えるきっかけとなりました。

発表当日には、これまでの実践の成果と課題より、助言者の関口指導主事、近藤校長先生から、ＰＤＣＡサイクルの実践の良さや、これまでの活動をさらに深めていく工夫など、的確な助言とご指導をいただけたことをありがたく感じています。本校教職員で情報を共有し、今後の教育活動に生かしていきたいと思います。

このような貴重な機会をいただいたことを心より感謝申し上げます。

上川・旭川大会講演

講師:元文部科学省初等中等教育局調査官・京都産業大学教授　柴原　弘志 氏

演題:「『特別の教科　道徳』の全面実施を迎えて」

～授業づくり・評価・カリキュラムマネジメント～

元文部科学省初等中等教育局調査官・京都産業大学教授　柴原　弘志 氏により、「『特別の教科　道徳』の全面実施を迎えて」と題して講演が行われました。

講演では、「最大の評価は、普段の声かけである。」と、授業の中で「評価の視点」にかかわる声かけをしていくことで質の高い学習指導につなげることや、「子どもは先生を選べない、道徳を学ぶ子どもの権利を奪わないでほしい」「できるところから　できることを　できるだけ」と、年間３５時間の道徳の授業の量的確保の大切さについてお話されました。また、多面的・多角的に考えるために児童生徒の発言を傾聴して受け止め、その発言を生かした重層的発問（問い返し、切り返し）を工夫することや、「自分が自分に自分を問う」自己内対話のある児童生徒が主体的に学ぶ授業を行うことなど、数多くのご示唆をいただきました。

今年度の小学校での教科化、次年度の中学校での教科化に向けて、参加した全ての人が明日にでも授業をすぐに行いたくなるような、とても実り多い講演となりました。

大会スナップ

第 53 回北海道道徳教育研究大会上川・旭川大会

＊期日：平成３０年１０月１９日（金）

＊会場：旭川市立中央中学校（中学校授業、授業分科会・課題別分科会、講演会）

旭川市立朝日小学校

（小学校授業、授業分科会）